

2010/4/9

柏の景気情報（平成22年3月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成22年3月分）

○ 調査期間 : 平成22年3月17日 ~ 3月23日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	75	70.1%
建設	19	14	73.7%
製造	23	19	82.6%
卸・小売	43	27	62.8%
サービス	22	15	68.2%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成22年3月の調査結果のポイント】

◀業況DIは4カ月連続でわずかに回復だが、景気回復の実感無し▶

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲42.6(前月水準▲44.5)となり、マイナス幅が△1.9ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲48.1(同▲58.6)である。変らない業種は、建設業▲64.2(同▲64.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲40.0(同▲28.5)、製造業▲21.0(同▲17.6)である。

【建設業】では、「経営上の問題として、中堅社員の営業力の向上と新入社員の教育問題がある」(管工事業(さく井を除く))というコメントがあった。

【卸小売業】では、「前月度については売上入店客数ともに上向きの傾向が見られたが、前年には届かない状況が継続。年度が変わったが厳しい情勢が続くと予想」(百貨店)、「お客様の目も厳しく、無駄なもの余計なものは買わず、買い上げ点数が減ってきています」(その他の各種商品小売業)、また、「3月度入店客数は前年を下回る推移となったが、売上高は依然客単価の低下は続いているものの前年を上回る推移となり、回復傾向が見て取れる。また、堅実で節約型の購買行動は継続しており、スタイリング次第で長く使える商材の動きが良かった。昨年は新館がオープンしその反動で売上高は昨年を下回る推移になったが、徐々に回復しつつある。後半にかけて各種イベントとの連動をはかり、売上につなげていく」(各種商品小売業)といった声も寄せられた。

【サービス業】では、「気温とともに売上来客を期待したいところだが、平日の来店客数が少なく、土日に集中している」(食堂・レストラン)、「宿泊は対前年売り上げ微増。宴会は近隣同業他社閉店による流れで大幅売り上げ増」(ホテル)といったコメントがあった。

◎景気回復実感なし

各業種から、「設備の増設がなかなか見えてこず、メディアで言われ始めている「景気が良くなってきた」という実感はまだ持てない。関連業者の情報として、一部(半導体・家電・車)で良くなってきつつあるという声は若干聞こえ始めているが…」(その他の機械・同部分品製造業)、「野菜は気候の変動で入荷量に影響があり単価にばらつきがある。果実はやや減少傾向。総体として前年並みに戻りつつあります。しかし景気回復していく状況が見えてこないため、消費者の不安は解消されない」(食料・飲料卸売業)、「景気回復の気配は全く感じられない。来街者数の減少、販売価格の下落が依然続いており、収益を悪くしている。また、設備の老朽化に伴う設備投資が今後増えることが予想されている」(その他の各種商品小売業)などの声が多数寄せられた。

◎売上減少

各業種から、「売上の減少が気にかかる。景気の回復を待つのみ」(紙製容器製造業)、「客数は前年並みであるが、客単価が低くなっているため、売上高は減少しています」(花、植木小売業)、「取引先ユーザーの工事受注減少が深刻化しており、材料売り上げは極めて悪い。経営環境は一段と悪化している。」(塗料卸売業)などのコメントが寄せられている。

◎先行き不透明

各業種から「同業異業種で事業縮小の話題が多い。先行き不安ばかりで早く景気回復の兆しを願う。また、お客様から要望としてエコポイントの枠を広げてもらいたいという意見を頂いた」(電気工事業)、「景気回復・デフレ解消時期等は不透明で判断しづらい」(ガラス・同製品製造業)、「各ユーザーの在庫圧縮等で受注があるが継続で注文があるかは不透明。コストダウンを続けてやっていく」(その他の鉄鋼業)などのコメントが寄せられている。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲57.1	▲71.4	▲58.8	▲63.3	▲31.2
11月	▲62.6	▲66.6	▲75.0	▲66.6	▲35.7
12月	▲59.2	▲73.3	▲41.1	▲68.9	▲46.6
1月	▲44.4	▲53.3	▲11.7	▲60.7	▲41.6
2月	▲44.5	▲64.2	▲17.6	▲58.6	▲28.5
3月	▲42.6	▲64.2	▲21.0	▲48.1	▲40.0
見通し	▲28.0	▲42.8	▲5.2	▲33.3	▲33.3

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成22年3月の業況についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲42.6(前月水準▲44.5)となり、マイナス幅が△1.9ポイント縮小した。

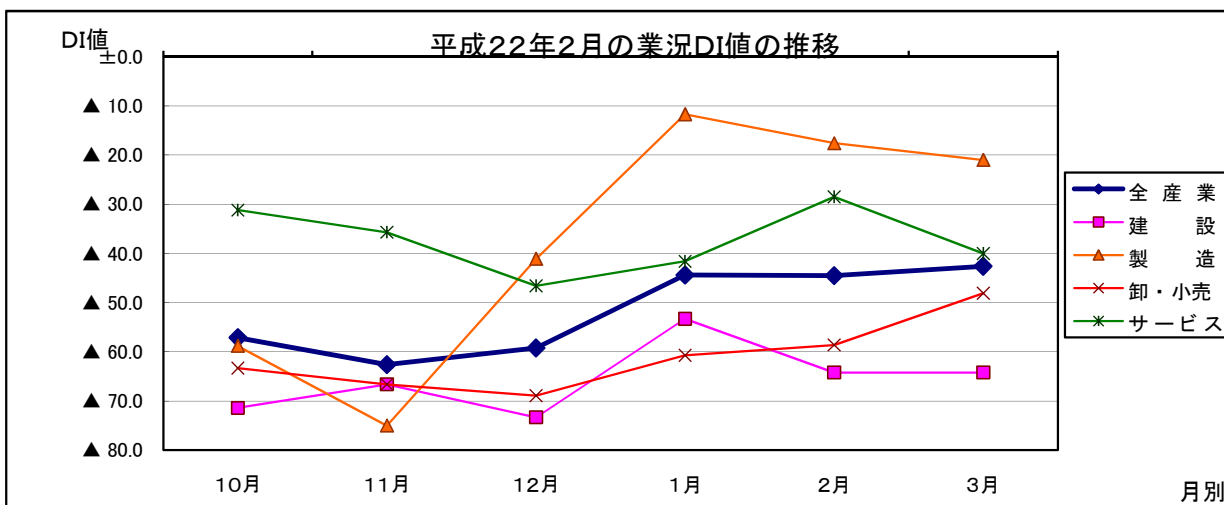
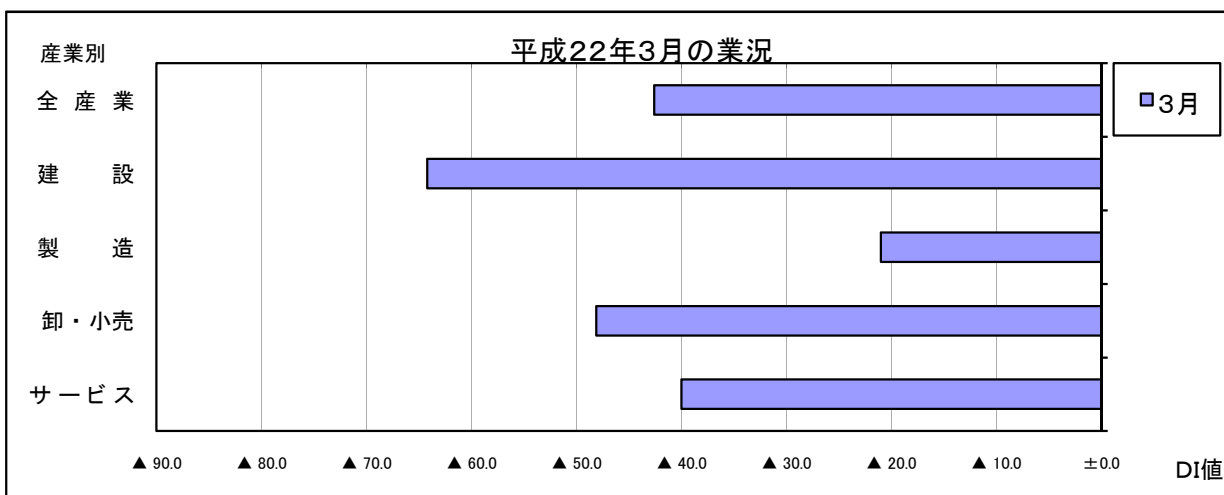
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲48.1(同▲58.6)である。変わらない業種は、建設業▲64.2(同▲64.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲40.0(同▲28.5)、製造業▲21.0(同▲17.6)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲28.0(前月水準▲28.3)となり、マイナス幅が△0.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲33.3(同▲44.8)、建設業▲42.8(同▲50.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲5.2(同△11.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲33.3(同▲21.4)である。

平成22年3月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 10月	11月	12月	平成22年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲57.1	▲62.6	▲59.2	▲44.4	▲44.5	▲42.6	▲28.0(▲28.3)
建設	▲71.4	▲66.6	▲73.3	▲53.3	▲64.2	▲64.2	▲42.8(▲50.0)
製造	▲58.8	▲75.0	▲41.1	▲11.7	▲17.6	▲21.0	▲5.2(△11.7)
卸・小売	▲63.3	▲66.6	▲68.9	▲60.7	▲58.6	▲48.1	▲33.3(▲44.8)
サービス	▲31.2	▲35.7	▲46.6	▲41.6	▲28.5	▲40.0	▲33.3(▲21.4)



【平成22年3月の売上についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲41.3(前月水準▲43.2)となり、マイナス幅が△1.9ポイント縮小した。

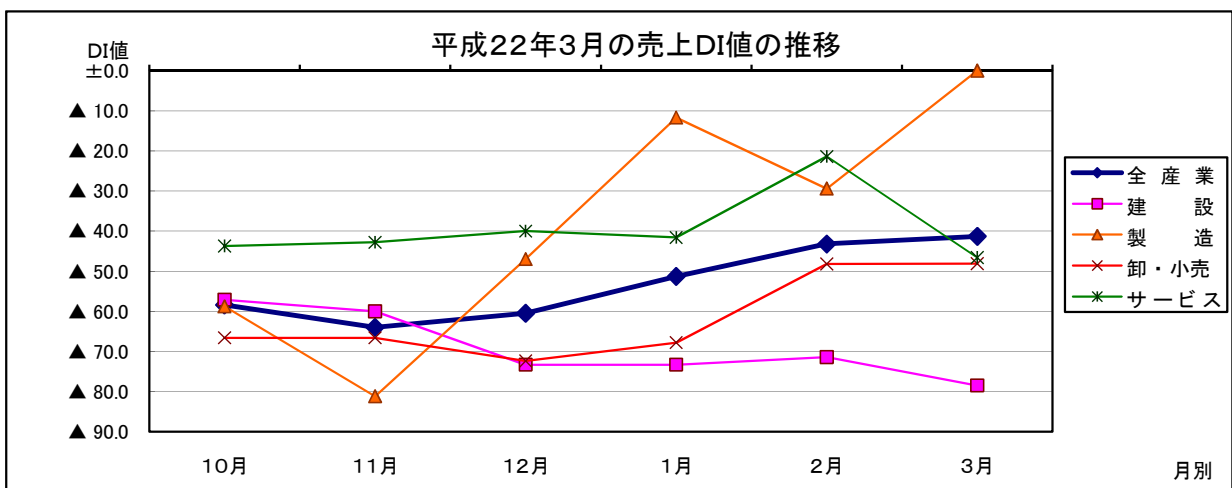
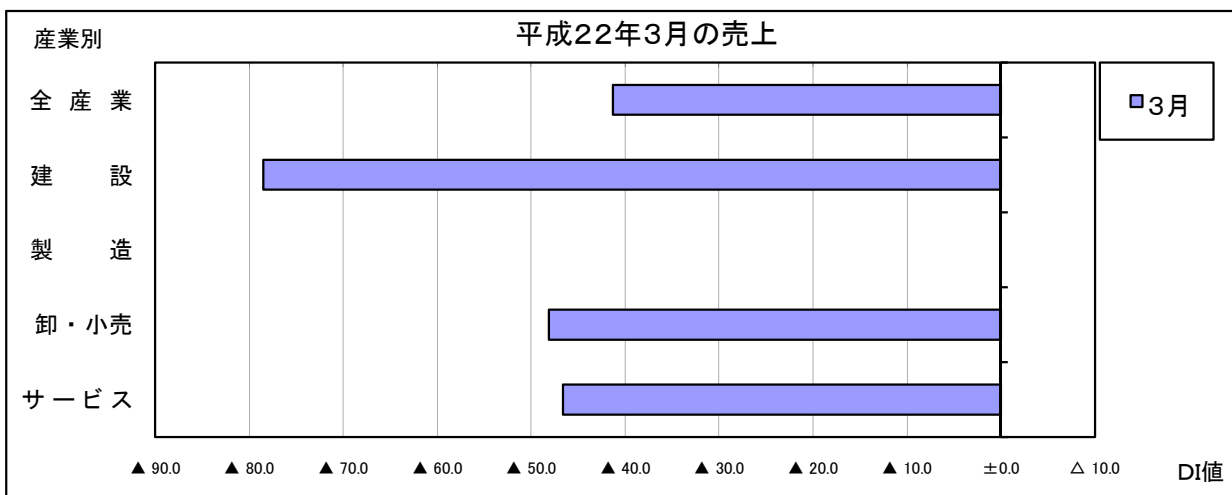
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲29.4)、卸小売業▲48.1(同▲48.2)であり、特に、製造業はマイナス幅が△29.4ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲46.6(同▲21.4)、建設業▲78.5(同▲71.4)であり、特に、サービス業はマイナス幅が▲25.2ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲24.0(前月水準▲20.2)となり、マイナス幅が▲3.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲13.3(同▲14.2)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△5.2(同△17.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲64.2(同▲57.1)、卸小売業▲29.6(同▲27.5)である。

平成22年3月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 10月	11月	12月	平成22年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲58.4	▲64.0	▲60.5	▲51.3	▲43.2	▲41.3	▲24.0(▲20.2)
建設	▲57.1	▲60.0	▲73.3	▲73.3	▲71.4	▲78.5	▲64.2(▲57.1)
製造	▲58.8	▲81.2	▲47.0	▲11.7	▲29.4	±0.0	△5.2(△17.6)
卸・小売	▲66.6	▲66.6	▲72.4	▲67.8	▲48.2	▲48.1	▲29.6(▲27.5)
サービス	▲43.7	▲42.8	▲40.0	▲41.6	▲21.4	▲46.6	▲13.3(▲14.2)



【平成22年3月の採算についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.0(前月水準▲40.5)となり、マイナス幅が△0.5ポイント縮小した。

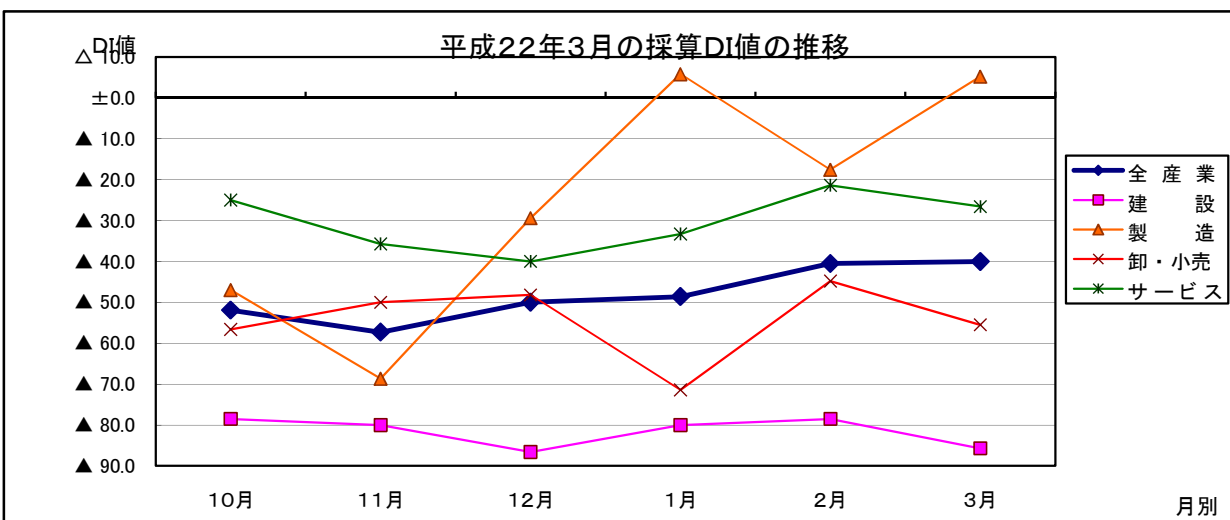
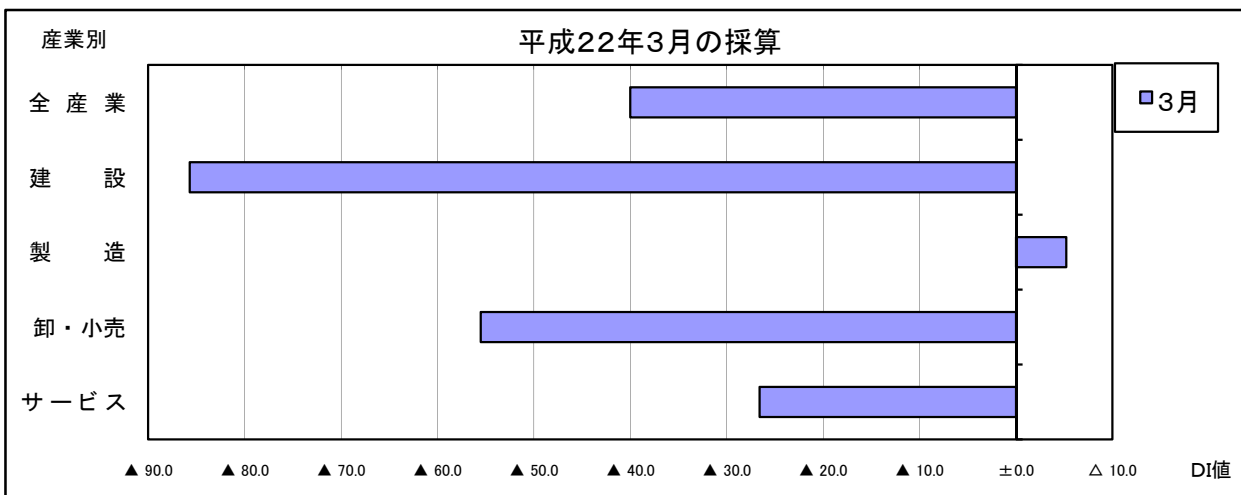
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△5.2(同▲17.6)であり、△22.8ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲55.5(同▲44.8)、建設業▲85.7(同▲78.5)、サービス業▲26.6(同▲21.4)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲33.3(前月水準▲24.3)となり、マイナス幅が▲9.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない見通しの業種は建設業▲71.4(同▲71.4)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同△17.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲26.6(同▲14.2)、卸小売業▲40.7(同▲31.0)である。

平成22年3月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 10月	11月	12月	平成22年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲51.9	▲57.3	▲50.0	▲48.6	▲40.5	▲40.0	▲33.3(▲24.3)
建設	▲78.5	▲80.0	▲86.6	▲80.0	▲78.5	▲85.7	▲71.4(▲71.4)
製造	▲47.0	▲68.7	▲29.4	△5.8	▲17.6	△5.2	±0.0(△17.6)
卸・小売	▲56.6	▲50.0	▲48.2	▲71.4	▲44.8	▲55.5	▲40.7(▲31.0)
サービス	▲25.0	▲35.7	▲40.0	▲33.3	▲21.4	▲26.6	▲26.6(▲14.2)



【平成22年3月の仕入単価についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲20.0(前月水準▲10.8)となり、マイナス幅が▲9.2ポイント拡大した。

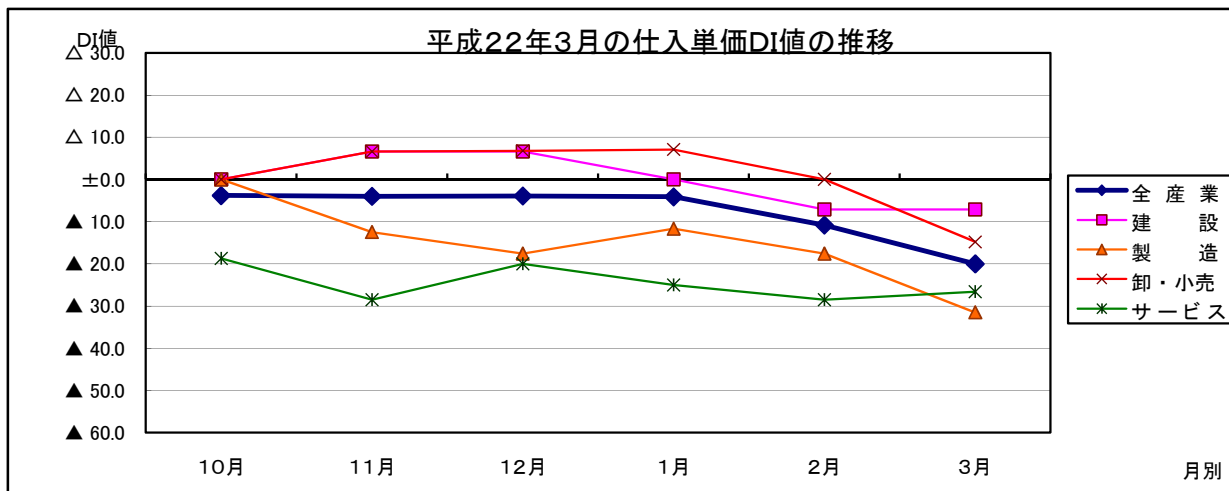
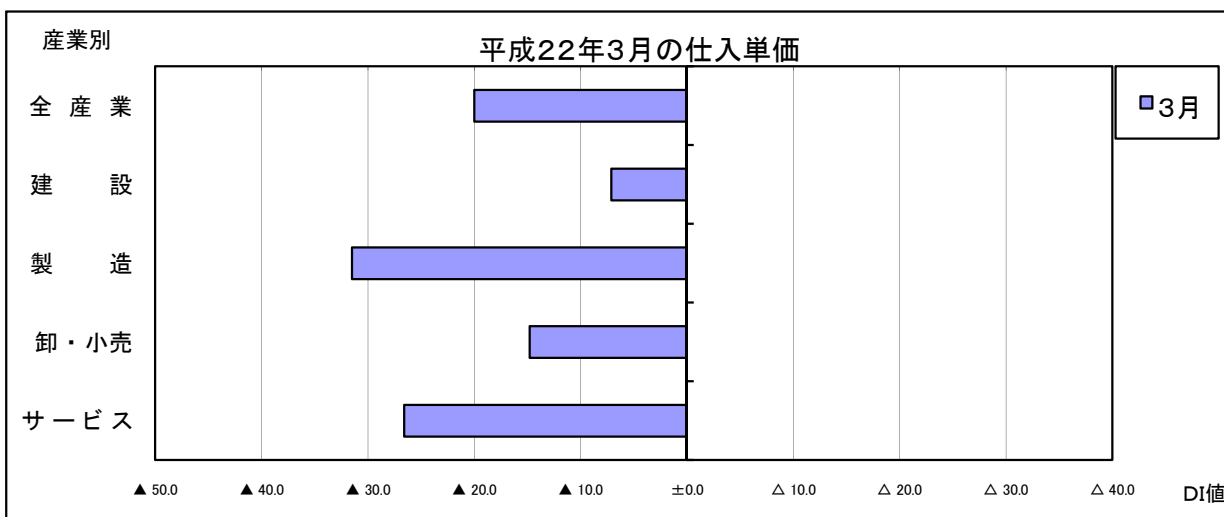
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲26.6(同▲28.5)である。変らない業種は、建設業▲7.1(同▲7.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲14.8(同±0.0)、製造業▲31.5(同▲17.6)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.3(前月水準▲2.7)となり、マイナス幅が▲14.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲26.6(同▲28.5)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、卸小売業▲3.7(同△10.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲31.5(同▲5.8)、建設業▲14.2(同±0.0)であり、特に、製造業はマイナス幅が▲25.7ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成22年3月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 10月	11月	12月	平成22年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲3.8	▲4.0	▲3.9	▲4.1	▲10.8	▲20.0	▲17.3(▲2.7)
建設	±0.0	△6.6	△6.6	±0.0	▲7.1	▲7.1	▲14.2(±0.0)
製造	±0.0	▲12.5	▲17.6	▲11.7	▲17.6	▲31.5	▲31.5(▲5.8)
卸・小売	±0.0	△6.6	△6.8	△7.1	±0.0	▲14.8	▲3.7(△10.3)
サービス	▲18.7	▲28.5	▲20.0	▲25.0	▲28.5	▲26.6	▲26.6(▲28.5)



【平成22年3月の従業員についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.6(前月水準▲9.4)となり、マイナス幅が▲1.2ポイント拡大した。

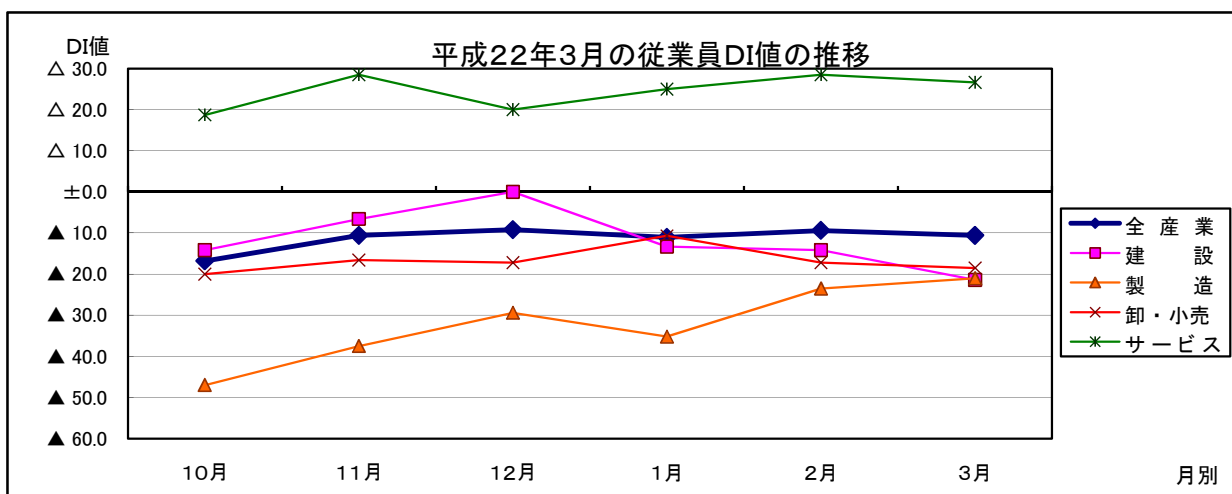
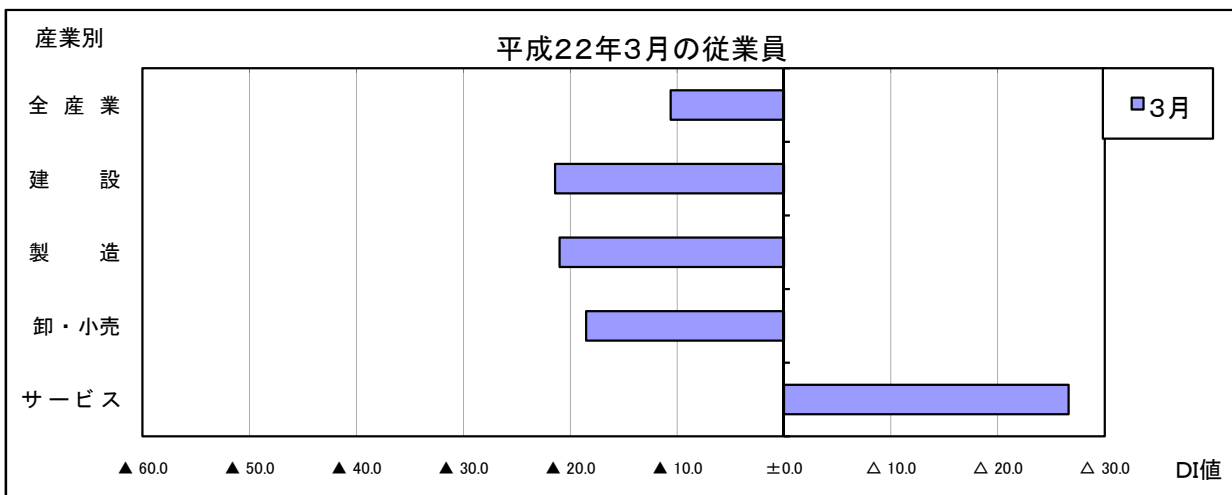
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲21.0(同▲23.5)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△26.6(同△28.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲21.4(同▲14.2)、卸小売業▲18.5(同▲17.2)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.6(前月水準▲8.1)となり、マイナス幅が△1.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△26.6(同△21.4)である。変らない見通しの業種は、製造業±0.0(同±0.0)、建設業▲28.5(同▲28.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲18.5(同▲17.2)である。

平成22年3月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 10月	11月	12月	平成22年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲16.8	▲10.6	▲9.2	▲11.1	▲9.4	▲10.6	▲6.6(▲8.1)
建設	▲14.2	▲6.6	±0.0	▲13.3	▲14.2	▲21.4	▲28.5(▲28.5)
製造	▲47.0	▲37.5	▲29.4	▲35.2	▲23.5	▲21.0	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲20.0	▲16.6	▲17.2	▲10.7	▲17.2	▲18.5	▲18.5(▲17.2)
サービス	△18.7	△28.5	△20.0	△25.0	△28.5	△26.6	△26.6(△21.4)



【平成22年3月の資金繰りについての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.6(前月水準▲28.3)となり、マイナス幅が△5.7ポイント縮小した。

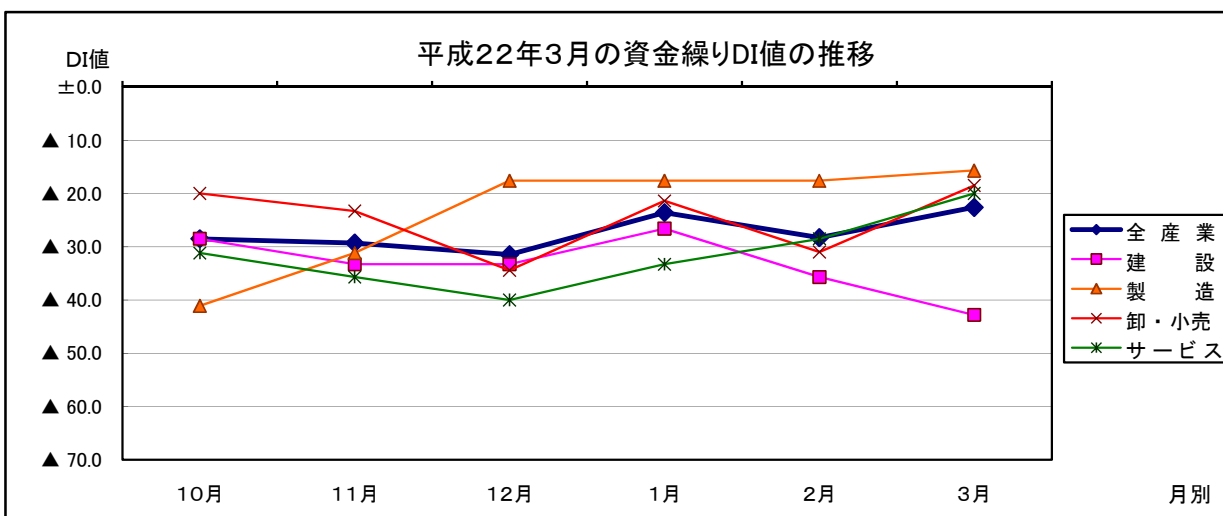
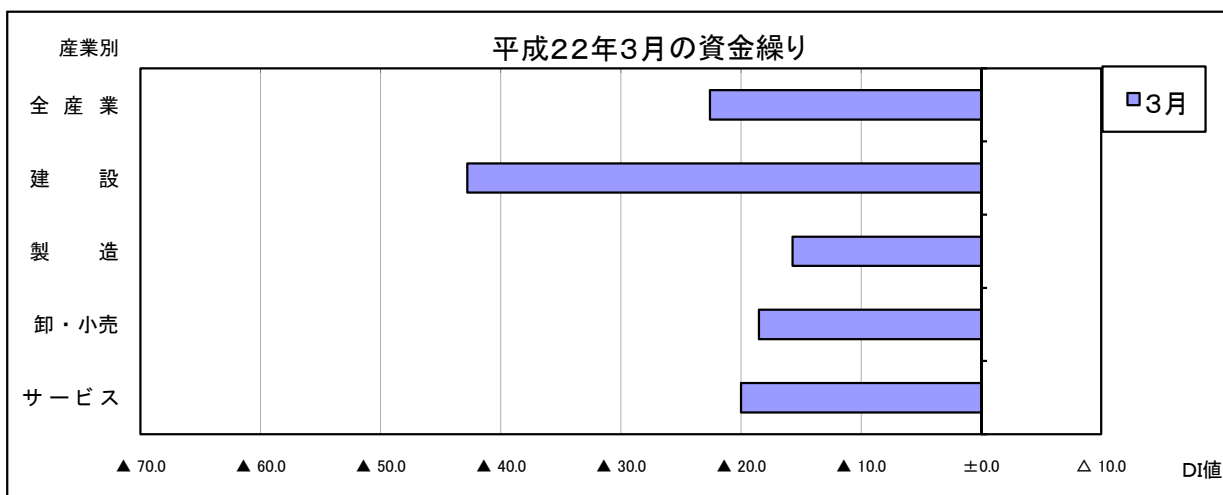
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲18.5(同▲31.0)、サービス業▲20.0(同▲28.5)、製造業▲15.7(同▲17.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲42.8(同▲35.7)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.3(前月水準▲21.6)となり、マイナス幅が△0.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲22.2(同▲31.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲35.7(同▲28.5)、サービス業▲20.0(同▲14.2)、製造業▲10.5(同▲5.8)である。

平成22年3月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成21年 10月	11月	12月	平成22年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲28.5	▲29.3	▲31.5	▲23.6	▲28.3	▲22.6	▲21.3(▲21.6)
建設	▲28.5	▲33.3	▲33.3	▲26.6	▲35.7	▲42.8	▲35.7(▲28.5)
製造	▲41.1	▲31.2	▲17.6	▲17.6	▲17.6	▲15.7	▲10.5(▲5.8)
卸・小売	▲20.0	▲23.3	▲34.4	▲21.4	▲31.0	▲18.5	▲22.2(▲31.0)
サービス	▲31.2	▲35.7	▲40.0	▲33.3	▲28.5	▲20.0	▲20.0(▲14.2)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 41.3	▲ 24.0	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 20.0	▲ 17.3	▲ 10.6	▲ 6.6
建設	▲ 78.5	▲ 64.2	▲ 85.7	▲ 71.4	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 21.4	▲ 28.5
製造	±0.0	△ 5.2	△ 5.2	±0.0	▲ 31.5	▲ 31.5	▲ 21.0	±0.0
卸・小売	▲ 48.1	▲ 29.6	▲ 55.5	▲ 40.7	▲ 14.8	▲ 3.7	▲ 18.5	▲ 18.5
サービス	▲ 46.6	▲ 13.3	▲ 26.6	▲ 26.6	▲ 26.6	▲ 26.6	△ 26.6	△ 26.6

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 42.6	▲ 28.0	▲ 22.6	▲ 21.3
建設	▲ 64.2	▲ 42.8	▲ 42.8	▲ 35.7
製造	▲ 21.0	▲ 5.2	▲ 15.7	▲ 10.5
卸・小売	▲ 48.1	▲ 33.3	▲ 18.5	▲ 22.2
サービス	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 20.0	▲ 20.0

【平成22年3月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	経営上の問題として、中堅社員の営業力の向上と新入社員の教育問題がある。	社員教育	管工事業(さく井を除く)
	同業異業種で事業縮小の話題が多い。先行き不安ばかりで早く景気回復の兆しがあることを願う。また、お客様から要望としてエコポイントの枠を広げてもらいたいという意見を頂いた。	先行き不安 景気回復への期待 エコポイント	電気工事業
製造	売上の減少が気にかかる。景気回復を待つのみ	売上減少 景気回復への期待	紙製容器製造業
	景気回復・デフレ解消時期等は不透明で判断しづらい	景気回復への期待 デフレ解消 先行き不透明	ガラス・同製品製造業
	各ユーザーの在庫圧縮等で受注があるが継続で注文があるかは不透明。コストダウンを続けてやっていく。	在庫圧縮 先行き不透明 コストダウン	その他の鉄鋼業
	設備の増設がなかなか見えてこず、メディアで言われ始めている「景気が良くなってきた」という実感はまだ持てない。関連業者の情報として、一部(半導体・家電・車)で良くなってきつつあるという声は若干聞こえ始めているが…	設備投資不透明 景気回復実感なし	その他の機械・同部分品製造業
卸小売	前月度については売上入店客数ともに上向きの傾向が見られたが、前年には届かない状況が継続。年度が変わったが厳しい情勢が続くと予想。お客様の目も厳しく、無駄なもの余計なものは買わず、買い上げ点数が減ってきています。	入店客数増加 厳しい情勢 商品意識厳格化 購入点数減少	百貨店 その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	野菜は気候の変動で入荷量に影響があり単価にばらつきがある。果実はやや減少傾向。総体として前年並みに戻りつつあります。しかし景気回復していく状況が見えてこないため、消費者の不安は解消されない。TX沿線の建設ラッシュと将来の構想が実現していけば、消費への期待が持てるのではないかと。	青果物入荷前年並み 景気回復実感なし 消費者の不安 市内北部開発	食料・飲料卸売業
	昨年から今年度前半にかけて市北部地区での物流関係企業で複数の移転があるようですが、企業の優遇措置期限等の問題が含まれていれば残念なことであり、一考を要すると思います。ここにきて卒業記念関係、新学期用品(学生衣料は増・文具昨年並み)は盛り返す。	新学期商品好調	その他の飲食物品小売業
	原油価格の変動が激しい	原油価格変動	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	LPガス業界において仕入価格は上昇しているが、小売販売価格への転嫁は難しい。理由としては規制緩和による利益を無視した販売会社が多く見受けられるようになったため。危険物商品としての保安を第一優先として行わなければならない業界が、今は保安よりも価格を第一優先として販売を行う業者が増え、また人口減少、その他燃料の普及効果があり、顧客減少を時代の流れとして見受けられるようになった。	仕入価格上昇 価格転嫁困難 規制緩和 顧客減少	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	グローバル化の中で日本が生き残る道筋(縮小も含め)を真剣に検討すべき時期にきているような気がする。便利さを犠牲にすることも選択肢の一つ?	グローバル化	書籍・文房具小売業
	客数は前年並みであるが、客単価が低くなっているため、売上高は減少しています。	客単価低下 売上高減少	花、植木小売業
	景気回復の気配は全く感じられない。来街者数の減少、販売価格の下落が依然続いており、収益を悪くしている。また、設備の老朽化に伴う設備投資が今後増えることが予想されている。	景気回復実感なし 客数減少 価格下落 収益悪化 設備投資増加	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	3月度入店客数は前年を下回る推移となったが、売上高は依然客単価の低下は続いているものの前年を上回る推移となり、回復傾向が見て取れる。また、堅実で節約型の購買行動は継続しており、スタイリング次第で長く使える商材の動きが良かった。昨年は新館がオープンしその反動で売上高は昨年を下回る推移になったが、徐々に回復しつつある。後半にかけて各種イベントとの連動をはかり、売上につなげていく。	前年上回る売上 回復の兆し 客単価低下 節約型購買	各種商品小売業
	取引先ユーザーの工事受注減少が深刻化しており、材料売り上げは極めて悪い。経営環境は一段と悪化している。	受注減少 売上減少 経営環境悪化	塗料卸売業

【平成22年3月の業種別業界内トピックス】

サービス	気温とともに売上来客を期待したいところだが、平日の来店客数が少なく、土日に集中している。	平日来店数減少 土日集中	食堂・レストラン
	宿泊は対前年売り上げ微増。宴会は近隣同業他社閉店による流れで大幅売り上げ増。	宿泊微増 同業他社閉店 宴会売上増加	ホテル

◎景気回復実感なし

- ・ 設備の増設がなかなか見えてこず、メディアで言われ始めている「景気が良くなってきた」という実感はまだ持てない。関連業者の情報として、一部(半導体・家電・車)で良くなってきつつあるという声は若干聞こえ始めているが…
- ・ 野菜は気候の変動で入荷量に影響があり単価にばらつきがある。果実はやや減少傾向。総体として前年並みに戻りつつあります。しかし景気回復していく状況が見えてこないため、消費者の不安は解消されない。
- ・ 景気回復の気配は全く感じられない。来街者数の減少、販売価格の下落が依然続いており、収益を悪くしている。また、設備の老朽化に伴う設備投資が今後増えることが予想されている。

◎売上減少

- ・ 売上の減少が気にかかる。景気の回復を待つのみ
- ・ 客数は前年並みであるが、客単価が低くなっているため、売上高は減少しています。
- ・ 取引先ユーザーの工事受注減少が深刻化しており、材料売り上げは極めて悪い。経営環境は一段と悪化している。

◎先行き不透明

- ・ 同業異業種で事業縮小の話題が多い。先行き不安ばかりで早く景気回復の兆しが来ることを願う。また、お客様から要望としてエコポイントの枠を広げてもらいたいという意見を頂いた。
- ・ 景気回復・デフレ解消時期等は不透明で判断しづらい
- ・ 各ユーザーの在庫圧縮等で受注があるが継続で注文があるかは不透明。コストダウンを続けてやっていく。











平成22年3月のCCI LOBOとの比較











- 【業況DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲42.6に対し、「CCI-LOBO」が▲49.3で、柏の方がマイナス幅が6.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業。
- 【売上DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲41.3に対し、「CCI-LOBO」が▲51.6で、柏の方がマイナス幅が10.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業で10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲40.0に対し、「CCI-LOBO」が▲46.9で、柏のほうマイナス幅が6.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業・卸小売業で、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲20.0に対し、「CCI-LOBO」が▲6.8で、柏の方がマイナス幅が13.2ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業・サービス業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.6に対し、「CCI-LOBO」が▲14.2で、柏の方がマイナス幅が3.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業。
- 【資金繰りDI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.6に対し、「CCI-LOBO」が▲32.6で、柏の方がマイナス幅が10.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業。











平成22年3月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50 > DI 25	まあまあ 25 > DI 0	不振 0 > DI 25	極めて不振 25 > DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 42.6	 64.2	 21.0	 48.1	 40.0
CCI LOBO	 49.3	 52.6	 35.6	 57.7	 52.1


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 41.3	 78.5	 ±0.0	 48.1	 46.6
CCI LOBO	 45.2	 44.7	 29.4	 56.4	 47.6


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 40.0	 85.7	 5.2	 55.5	 26.6
CCI LOBO	 46.9	 51.6	 33.9	 54.2	 50.6

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 20.0	 7.1	 31.5	 14.8	 26.6
CCI LOBO	 6.8	 11.8	 13.4	 2.3	 11.5

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 10.6	 21.4	 21.0	 18.5	 26.6
CCI LOBO	 14.2	 24.4	 15.8	 9.5	 8.6

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 22.6	 42.8	 15.7	 18.5	 20.0
CCI LOBO	 32.6	 42.7	 27.6	 33.1	 33.7

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(3月の調査結果のポイント)

調査期間：平成22年2月17日～23日

調査対象：柏市内107事業所及び組合にヒアリング、回答数75

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲57.1	▲71.4	▲58.8	▲63.3	▲31.2
11月	▲62.6	▲66.6	▲75.0	▲66.6	▲35.7
12月	▲59.2	▲73.3	▲41.1	▲68.9	▲46.6
1月	▲44.4	▲53.3	▲11.7	▲60.7	▲41.6
2月	▲44.5	▲64.2	▲17.6	▲58.6	▲28.5
3月	▲42.6	▲64.2	▲21.0	▲48.1	▲40.0
見通し	▲28.0	▲42.8	▲5.2	▲33.3	▲33.3

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

業況D Iは4カ月連続で回復基調だが、景気回復の実感は無い

3月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、42.6(前月水準44.5)となり、マイナス幅が1.9ポイント縮小した。業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業(48.1)同(58.6)である。変らない業種は、建設業(64.2)同(64.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業

40.0(同28.5)、製造業21.0(同17.6)である。

【建設業】では、「経営上の問題」として、中堅社員の営業力向上と新入社員の教育問題がある(「管工事業」さく井を除く)といったコメントがあった。

【卸小売業】では、「前月度については売上入店客数ともに上向きの傾向が見られたが、前年には届かない状況が継続、年度が変わったが厳しい情勢が続くと予想(「百貨店」)、「お客様の目も厳しく、無駄なもの余計なものは買わず、買い上げ点数が減ってきています」(その他の各種商品小売業)、「また、3月度入店客数は前年を下

回る推移となったが、売上高は依然客単価の低下が続いているものの前年を上回る推移となり、回復傾向が見取れる。また、堅実で節約型の購買行動は継続しており、スタイリング次第で長く使える商材の動きが良かった。昨年は新館がオープンしその反動で売上高は昨年を下回る推移になったが、徐々に回復しつつある。後半にかけて各種イベントとの連動をはかり、売上につなげていく(「各種商甲小売業」といった声も寄せられた)。

【サービス業】からは、「気温とともに売上来客を期待した

いところだが、平日の来店客数が少なく、土日に集中している(「食堂・レストラン」)、「宿泊は対前年売り上げ微増、宴会は近隣同業他社閉店による流れで大幅売り上げ増(「ホテル)」といったコメントがあった。

三月の景気キーワード

景気回復実感なし

各業種から、「設備の増設がなかなか見えてこず、メディアで言われ始めている」「景気が良くなってきた」という実感はまだまだ持てない。関連業者の情報として、一部(半導体・家電・車)で良くなってきたところがあるという声は若干聞こえてきているが、「(その他の機械・同部分品製造業)、「野菜は気候の変動で入荷量に影響があり単価にはらつきがある。果実はやや減少傾向、総体として前年並みに戻りつつあります。しかし景気回復していく状況が見えてこないため、消費者の不安は解消されない(「食料・飲料卸売業)、「景気回復の気配は全く感じられない。来街者数の減少、販売価格の下落が依然続いており、収益を悪くしている。また、設備の老朽化に伴う設備投資が今後増えることが予想されている(「その他の各種商品小売業」などの声が多数寄せられた)。

売上減少

各業種から、「売上の減少が気にかかる。景気の回復を待つのみ(「紙製容器製造業)、「客数は前年並みであるが、客単価が低くなっているため、売上高は減少してしま(「花・植木小売業)、「取引先ユーザーの工事受注減少が深刻化しており、材料売り上げは極めて悪い。経営環境は一段と悪化している。」「(塗料卸売業)などのコメントが寄せられている。

先行き不透明

各業種から、「同業異業種で事業縮小の話題が多い。先行き不安ばかりで早く景気回復の兆しが来ることを願う。また、お客様から要望としてEコマースの枠を上げてもらいたいという意見を頂いた(「電気工事業)、「景気回復・デフレ解消時期等は不透明で判断しづらい(「ガラス・同製品製造業)、「ユーザーの在庫圧縮等で受注があるが継続で注文があるかは不透明。コストダウンを続けてやっていく(「その他の鉄鋼業)などのコメントが寄せられている。

CCI LOBOOの比較

全産業合計では、「柏の景気が42.6に対し、「C

CCI LOBOO」が49.3で、柏の方がマイナス幅が6.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業。

C C I - L O B O

商工会議所早期景気観測(3月速報)

調査期間：平成22年3月17日～24日

調査対象：全国の408商工会議所が2638業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIのマイナス幅は3カ月連続で縮小、大幅縮小は2カ月連続

3月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース以下同じ)は、49.3となり前月に比べると+6.9ポイントと、3カ月連続でマイナス幅が縮小した。前月比+5ポイント以上の大幅なマイナス幅縮小は2カ月連続となった。比較対象となる昨年3月の業況DIが72.8と極めて低い水準であったという要因はあるものの、製造業を中心に着実に持ち直しの動きが続いているとみられる。しかし、大幅な需要不足によるデフレの深刻化などの影響により、水準は依然厳しい状況が続いている。各地からは「地方に波及するまでには時間がかかる」との声が寄せられている。先行きについては、42.5(前月比+4.6ポイント)と3カ月連続でマイナス幅が縮小した。新風向け輸出の増加等の影響により製造業を中心に業況感の持ち直しが続くとみられる。建設業を中心に住宅版エコポイント制度への期待感も出ている。ただ、大手自動車メーカーのリコール問題やデフレによる販売価格の低下、雇用・所得不安に伴う個人消費・住宅建設の減退、公共工事量の減少、燃料価格の上昇懸念などから、先行き見通しには慎重な声が依然として根強い。

【建設業】公共事は来年度政府予算は1.8%減少となったが、愛媛県では減少分を債の発行によりカバーする予算編成がされた(一般事業)。「住宅版エコポイント制度が住宅業界の追い風となることを期待」(建築士事業)。「原油価格の上昇で、アスファルトなど一部の原材料価格が上昇」(土木事業)。

【製造業】輸出需要の上向き傾向があり、売上増を感じられる(その他のプラスチック製品製造業)。「国内景気に持ち直し感があるものの、地域経済への波及には時間がかかる」(農業用機械製造業)。「耐火物の生産量、販売量ともに前年同月比で20%増加したが、前々年同月比では20%減少となり、また回復途上」(耐火物製造業)。

【卸売業】売上は下げ止まっているが、前年同月と同水準。新年度の公共事業予算の削減もあり、建築関連卸売業の先行きはよくない(各種商品卸売業)。「各得意先を信用調査した結果、総体的に評価が悪化していることが判明。与信管理上、社内営業スタッフに回収条件短縮等改善を指示した」(建築材料卸売業)。「複合複写機等は昨年同月比微増となったが、官需主導で民需の回復が遅れている(家具・建具卸売業)」。

【小売業】競合店も価格に敏感で毎日1円単位の価格競争をしている(百貨店)。「近隣のスーパー

が閉店したため、多少売上が増加した(百貨店)。「ガソリンスタンド等石油関連業者は業態進化による廃業が最近目立ってきた」(燃料小売業)。

【サービス業】「歓送迎会のシーズンが始まるが、前年並みの売上を確保できるか不安」(他の一般飲食店)。「中小企業金融円滑化法成立後、金融機関が機敏に対応してくれている。ただ、デフレの長期化を懸念し、申請をためらっている組合員もいる」(理容)。「地方では景気回復の兆しが一向に感じられない」(旅館)。

三月のキーワード

デフレの深刻化
販売価格が下がり、採算が悪化している企業が依然多くデフレの深刻化による悪影響を訴える声が多く寄せられた。一方、原油価格等の上昇から石油製品価格を中心に押し上げに転じているものもみられる。

「公共工事の減少により、大手ゼネコンによる低価格受注に拍車がかかっている」(京都・一般事業)。「買控えによる衣料品・日用品の売上不振が続いている。食品は、低価格販売により客数は戻っているが、客単価が低く売上げにつながっていない」(大川・その他の小売業)。「販促のための値引きを実施したが、採算が悪化している」(三島・その他の小売業)。「歓迎会シーズンだが客単価が

下がっている」(倉敷・食堂・レストラン)。「原材料価格は上昇しているが、販売価格は値上げどころか値下げ要求を受けている」(名古屋・鉄骨形材製造業)。

根強い先行き不安

新年度以降の公共工事の減少、所得・雇用情勢や資金繰りへの懸念、倒産・廃業の拡大など、先行きに対する不安は根強い。「4月以降の仕事の発注量減少が、官民ともにこの程度になるのか想像がつかず、非常に不安」(帯広・一般工事業)。「仕事がないため、組合員の廃業が増加している」(横須賀・土木事業)。「新規創業者は例年より少ない。創業後1年たらずに廃業する店舗もある」(福山・食堂・レストラン)。「今後3年分の受注残はあるが、その後が不安」(尾道・船舶製造・修理業、船用機関連製造業)。

依然として厳しい雇用情勢
企業収益は低迷を続けており、雇用情勢は依然として厳しいという声が多い。「雇用安定助成金を受けながら稼働していたので従業員も減らすことなくやってこれた。製造業という大きなくりでみると、少し上向きになってきたが、企業別にみると格差がある」(西条・建設用・建築用金属製品製造業)。「依然業況は回復しておらず、厳しい状況で、従業員も過

剩感が続いている」(赤穂・金属加工機械製造業)。「不景気のため今年は社員の採用を控えている」(四国中央・百貨店)。「人件費等が負担になり採算を圧迫している」(名古屋・ソフトウェア)。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
10月	▲60.6	▲64.1	▲62.4	▲65.4	▲62.9	▲51.8
11月	▲60.0	▲55.5	▲60.2	▲67.7	▲64.3	▲54.8
12月	▲63.8	▲62.4	▲59.4	▲67.1	▲71.7	▲58.6
1月	▲62.3	▲63.9	▲58.0	▲58.3	▲69.5	▲59.1
2月	▲56.2	▲61.4	▲47.4	▲57.1	▲62.7	▲54.5
3月	▲49.3	▲52.6	▲35.6	▲50.0	▲57.7	▲52.1
見通し	▲42.5	▲57.2	▲35.1	▲39.1	▲47.2	▲36.8

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI